

## 企画展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」実施報告

長谷川 能三\*

### 概要

国立科学博物館で企画・製作した巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」を、大阪市立科学館で2010年4月24日～6月27日に企画展として開催した。当館でも、ノーベル賞学者やその業績に関する資料を所蔵しており、これらの資料も合わせて展示した。さらに期間中、その資料や業績などについて、学芸員によるギャラリートークを行なった。そこで、関連した資料展示を含む企画展およびギャラリートークについて報告する。

#### 1. はじめに

「ノーベル賞を受賞した科学者展」は、国立科学博物館が企画・製作した巡回展である。当初は2002年受賞の小柴昌俊、田中耕一までの9名の科学者についての展示であったが、当館での展示までに、2008年受賞の小林誠、益川敏英、南部陽一郎、下村脩の4名についての展示が加えられていた。但し、ノーベル賞者の発表は毎年10月に行なわれるため、2010年受賞の鈴木章、根岸英一については入っていない。

#### 2. 展示内容

巡回展の展示は、各科学者について幅1m程度のパネルボードと、その手前に置かれた展示ケースからなる。パネルボードには、略歴やノーベル賞受賞の対象となった業績を解説したシートが貼られ、展示ケースには、論文や色紙、写真などのパネル(いずれも複製)が入っている。

大阪市立科学館では、「KAMIOKANDEの光電子増倍管」をはじめ、ノーベル賞に関連した資料を収蔵しており、多くは常設展示場の各コーナーで展示している。今回企画展を展開した展示場4階「サイエンスギャラリー」前は、その光電子増倍管の展示場所のすぐ近くでもある。そこで今回、巡回展の周辺で当館の収蔵資料も一括して展示し、合わせて企画展とした。



写真1. 企画展の様子(巡回展部分)



写真2. 当館所蔵資料の展示(上、下左)

\*大阪市立科学館 学芸員  
hasegawa@sci-museum.jp

展示した資料は表1のとおりで、企画展の一部であることがわかるように、巡回展のイメージカラーである黄色を基調としたキャプションをつけた。

表1. 展示した当館所蔵資料

科学者	主な展示資料
湯川秀樹	自筆原稿、大阪大学写真パネル
江崎玲於奈	東京通信工業のトランジスタラジオ
白川英樹	導電性プラスチック
小柴昌俊	KAMIOKANDEの光電子増倍管
田中耕一	質量分析器のイオン引き出し部
南部陽一郎	磁石のテーブル(操作型展示装置)

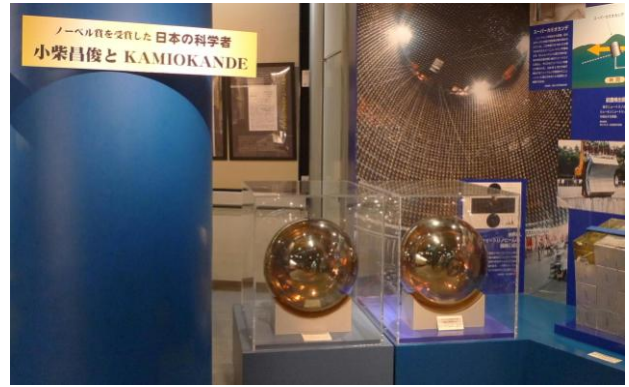


写真6. KAMIOKANDEの光電子増倍管



写真3. 湯川秀樹の自筆原稿等



写真8. 磁石のテーブルと自発的対称性の破れ

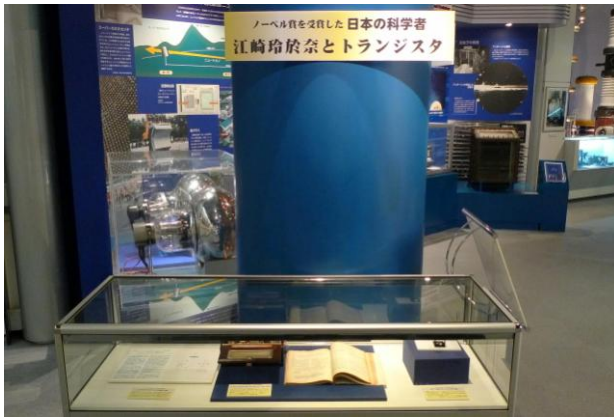


写真4. 東京通信工業のトランジスタラジオ等

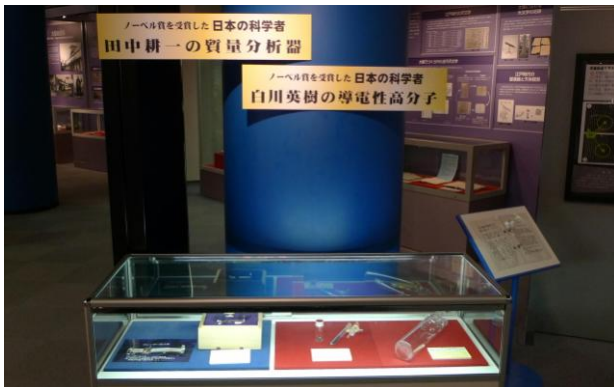


写真5. 導電性プラスチック(右)と  
質量分析器のイオン引き出し部(左)

### 3. ギャラリートーク

企画展の期間中、特に関連展示とリンクさせてギャラリートークを行なった。ギャラリートークは、企画展の期間が約2ヶ月と長いこともあり、6テーマについて各2回、計12回行なった。日時はいずれも土曜日または日曜日の15時から20分間程度とした。担当学芸員とテーマは表2のとおりである。

表2. ギャラリートーク一覧

担当学芸員	月 日	テーマ
斎藤 吉彦	5月2日	「湯川秀樹と大阪大学」
	6月12日	
大倉 宏	5月9日	「小柴昌俊と KAMIOKANDE」
	6月6日	
小野 昌弘	5月16日	「田中耕一の 質量分析器」
	6月13日	
岳川有紀子	5月23日	「白川英樹の 導電性プラスチック」
	6月20日	
斎藤 吉彦	5月29日	「南部陽一郎と 自発的対称性の破れ」
	6月26日	
長谷川能三	5月30日	「江崎玲於奈と トランジスタ」
	6月27日	

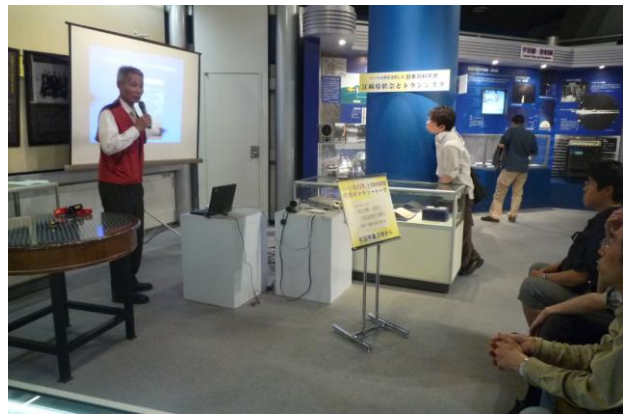


写真9. ギャラリートークの様子

#### 4. まとめ

巡回展では、難しい業績を易しく解説するなど工夫してあったが、多くの館を巡回するためか、展示ケース内の資料が全て複製パネルであった。今回、当館所蔵資料の展示や、学芸員によるギャラリートークを組み合わせることにより、巡回展だけと比べて当館独自の深みを加えられたと思われる。

特にギャラリートークは、スペースがあまり広くなかったこともあるが満員状態になることも多く、中にはテーマが変わる毎に何度も聞いている方もいらっしゃった。